

佐用町と共に

「食」を通じてローコスト・ハイクオリティ社会の実現を目指す
プロフェッショナル人材の育成
～佐用風土(Sayo Food)を活用したモデルプランの構築～



兵庫県立佐用高等学校 家政科

1. 学校紹介



農業科学科 1クラス



家政科 1クラス



普通科 3クラス



明治42年
昭和23年

佐用郡立農蚕学校として開校
兵庫県立佐用高等学校
に校名変更

今年で創立113年

2. 佐用町の紹介



佐用町の人口

15,707人

令和4年6月

佐用町

姫路

神戸

大阪

岡山・倉敷

高齢化率

43.7%

令和4年2月

全国平均の1.5倍

課題

- 人口減少
- 少子高齢化

2. 佐用町の紹介

特産品

ひまわり油



三日月高原ぶどう



もち大豆



佐用風土 (Sayo Food)

夢茜トマト



ジャンボピーマン



はちみつ



3. 事業の概要

佐用高校スクールミッション

「自主独立 敬愛協力 創造工夫」の理念のもと、自立して未来に挑戦する態度をもち、志を抱いて地域社会や国際社会に貢献できる力を備え、グローバルな視野とローカルな視点をもったグローバルの理念を実現できる人材を育成する。

佐用高校スクールポリシー（家政科グラデュエーション・ポリシー）

専門的な知識と技術を習得し、生活産業分野の高い資質をもった生徒を育成する。

生活の質の向上と社会の発展を担うプロフェッショナル人材を育成する。

将来の進路実現に向けて努力し、自らの生き方をデザインする力を持った生徒を育成する。

3. 事業の概要

佐用町の課題解決 プロフェッショナル人材の育成

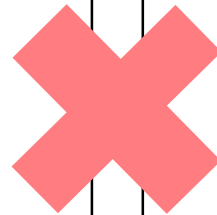
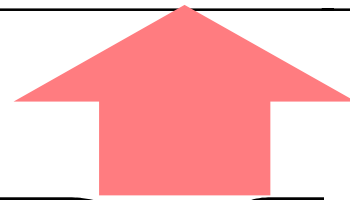
佐用町

- ・ 特産品のブランド化
- ・ 健康寿命の延伸
に向けた取組
- ・ 減災への対応力のある
まちづくりの推進

佐用高校家政科

「食」

についての知識・技術



3. 事業の概要

課題解決のための3本柱

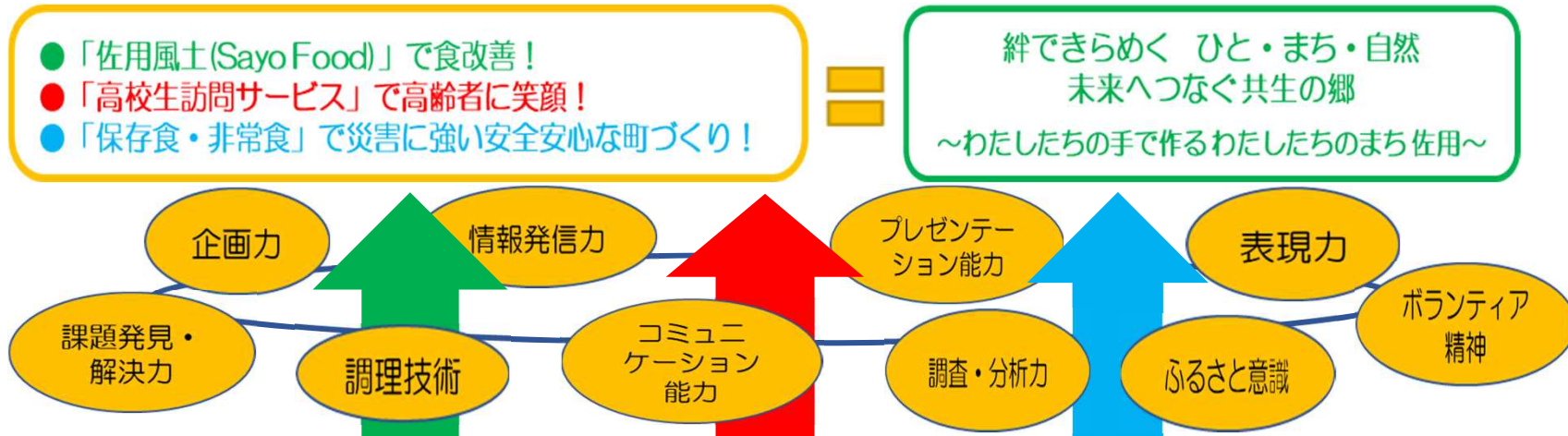
(1) 特産品による商品開発

(2) 健康寿命の延伸

(3) 災害に強い町づくり

3. 事業の概要（当初計画）

「食」を通じてローコスト・ハイクオリティ社会の実現を目指す
プロフェッショナル人材を育成



学年	付けた い力	佐用の特産品を活用 (佐用もち大豆・ 夢茜トマト)	佐用で暮らす人を守る (高齢者食生活調査・ 食改善レシピ開発)	佐用の水害から学ぶ (災害時保存食開発・ 避難時支援者育成)	開発目標
3年	探究 発展力	フードスペシャリスト (高校生カフェ・ レシピ本発行)	ヒューマンサービス (高校生訪問サービス)	ヒューマンサービス (減災対策の提言)	●最終成果発表 (商品、レシピ本等) ●検証と成果普及 方法の確立
2年	探究 実践力	課題研究 (「佐用風土 (Sayo Food)」を使った商品 開発・食育活動)	ヒューマンサービス (地域課題改善策の 提言)	フードデザイン (保存食・非常食開発)	●校内外での中間 発表等の実施 ●フィールドワー ク
1年	探究 基礎力	フードデザイン (基礎学習・食育活動)	生活産業基礎 (地域実態調査)	総合的な探究の時間 (防災学習・佐用学)	●カリキュラムや 評価等研究・開発 ●PDCAサイクル の確立

4. カリキュラム開発

令和2年度入学生教育課程（1学年）

学年	学科	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
令和元年度 第1学年	家政科	家庭総合④				生活産業情報②		フードデザイン②		ファッション造形基礎②		生活産業基礎①	総合的な探究の時間①		LHR①
令和2年度 第1学年	家政科	家庭総合④				生活産業情報②		フードデザイン②		ファッション造形基礎②		生活産業基礎①	総合的な探究の時間①		LHR①

4. カリキュラム開発

令和2年度入学生教育課程（2学年）

※は学校設定科目

学年	学科	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
令和2年度 第2学年	家政科	ファッションデザイン② 食文化②	ファッションデザイン②	生活産業基礎①	生活と福祉②		※伝統文化②		フードデザイン②		ファッション造形基礎②		服飾手芸②調理②		LHR①
令和3年度 第2学年	家政科	ファッション造形②	ファッション造形② 調理②	生活産業基礎①	生活と福祉②		※ヒューマンサービス②		フードデザイン②		ファッション造形基礎②		課題研究②		LHR①

4. カリキュラム開発

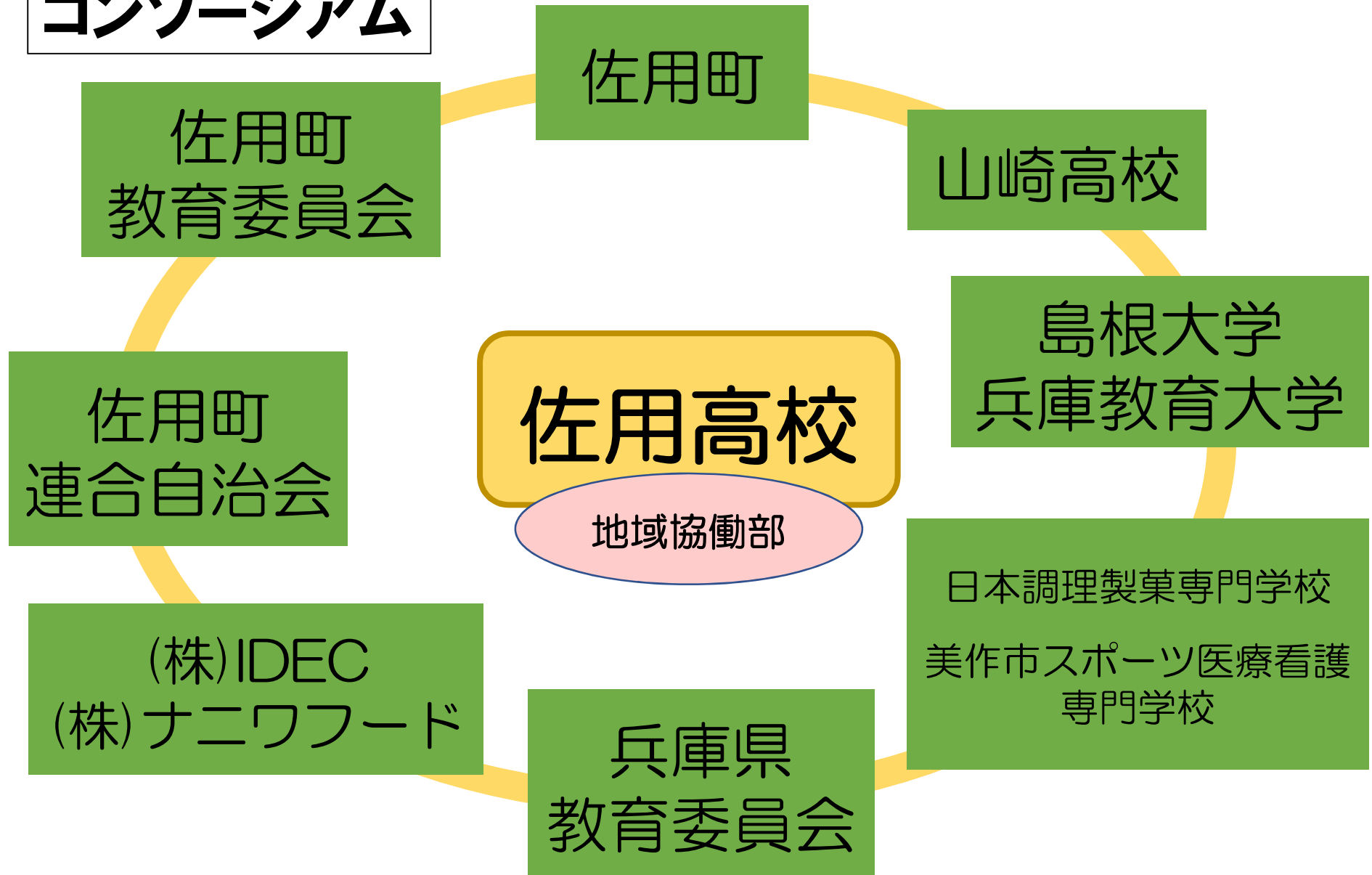
令和2年度入学生教育課程（3学年）

※は学校設定科目

学年	学科	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
令和3年度 第3学年	家政科	服飾手芸③調理③			子どもの発達と保育②		フードデザイン③			ファッション造形③			課題研究④			LHR①	
令和4年度 第3学年	家政科	ファッション造形③調理③			子どもの発達と保育②		※伝統文化②		※ヒューマンサービスⅡ②		フードデザイン②		※フードスペシャリスト②		課題研究②		LHR①

4. カリキュラム開発

コンソーシアム



(1) 特産品による商品開発

佐用風土 (Sayo Food) を使って商品開発

地域資源を活用し、地域活性化に貢献

①商品開発

②地産地消啓発活動

③食育活動

①商品開発「2年生課題研究（食物）」

佐用町 × 企業 × 佐用高校

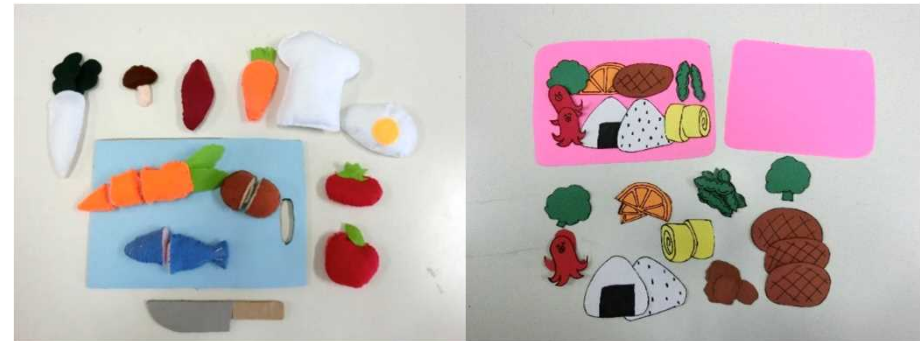


②高校生カフェ 「3年生課題研究（食物）」



③食育活動「1年生フードデザイン」

ふれあいクッキング・食育おもちゃ



③食育活動「3年生フードスペシャリスト」

食改善レシピ

- ・ 佐用町に住む幅広い世代
- ・ 特産品を取り入れたレシピ



(2) 健康寿命の延伸

充実した暮らしができるまちづくり

健康寿命の延伸に向けた提言・実践

- ①福祉知識及び技術の習得
- ②高校生訪問サービス
- ③給食サービス

①福祉知識及び技術の習得 「2年生生活と福祉」



- 佐用町役場
- 美作市スポーツ医療看護専門学校
- 佐用共立病院
- 日本調理製菓専門学校
- 佐用町社会福祉協議会

②高校生訪問サービス 「3年生ヒューマンサービスⅡ」

高齢者世帯訪問

- ・ 日常会話
- ・ 趣味の共有
- ・ レクリエーション
- ・ 健康食生活の提案



③給食サービス「2年生ヒューマンサービス」

協働先：社会福祉協議会



お品書き

メッセージ
ハガキ

献立・調理

双方向の
交流

③給食サービス「2年生ヒューマンサービス」



旬の食材



農業科学科
の野菜



彩り
栄養バランス

(3) 災害に強い町づくり

「減災への対応力のある」まちづくりの推進

地域の方と一緒に災害について考える

- ① 災害・防災学習
- ② 減災week
- ③ 佐用合同防災訓練
～KIZUNA大作戦～

①災害・防災学習 「1年生総探・フードデザイン」

- ・ 佐用町の水害
- ・ 子供の減災教育
- ・ 防災ワークショップ
- ・ パッククッキング
- ・ 災害食



②減災week

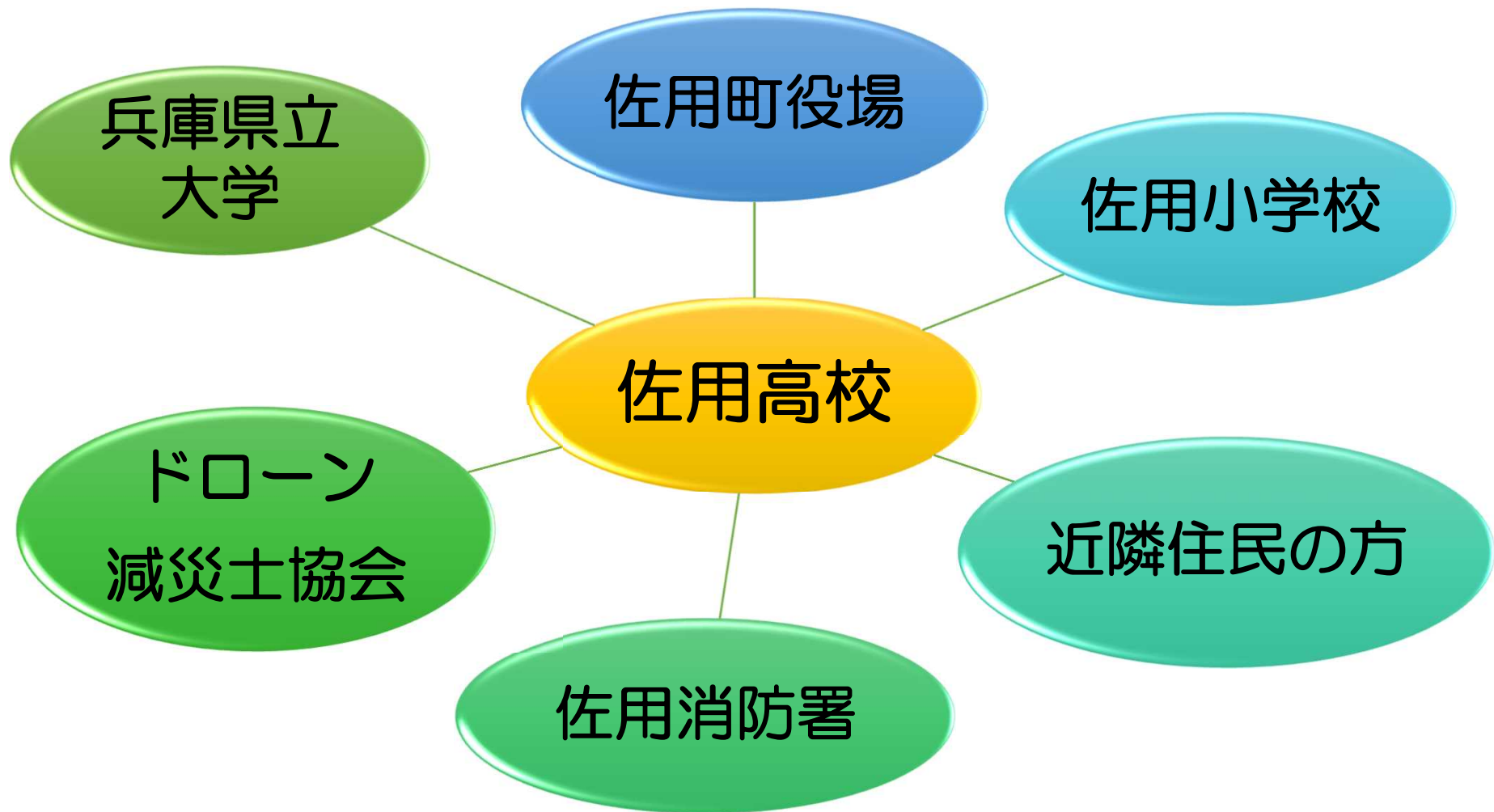
教科横断的な 取組

- 家庭基礎（災害時の備え）
- 農業と環境（災害と農業）
- 保健（応急手当）
- 美術（防災ピクトグラム）
- 英語（防災対策）
- 地理（ハザードマップ）



③合同防災訓練～KIZUNA大作戦～

地域を巻き込んだ防災訓練を企画運営



③合同防災訓練～KIZUNA大作戦～



- 佐用高校生徒職員 570名
- 佐用町企画防災課 4名
- 佐用小学校1年生・職員 44名
- 地域住民長尾地区 10名
- ドローン減災士協会 5名
- 兵庫県立大学木村教授ゼミ生 11名
- 視察小野市おの防災リーダー 9名
- 上郡高校 2名

③ 合同防災訓練～KIZUNA大作戦～



4. カリキュラム開発

3年間の事業進行の流れ

1年目

知識・技術
地域について知る

探究活動

2年目

商品開発
訪問サービス
防災訓練

実践活動

3年目

地域へ還元
生活改善の
提言

発展活動

4. カリキュラム開発

生徒が主体的な学びに向かうための佐用高校指導メソッド

生徒の活動	教員の指導
P (計画)	「共に考え待つ」 生徒の自主的な活動を待つ姿勢
D (実行)	「共に行動し見守る」 教員は側についていて見守る姿勢
C (評価)	「共に振り返り褒める」 良いところを見つけ褒める姿勢
A (改善)	「共に改め期待する」 生徒の挑戦を信じて期待する姿勢

5. カリキュラム開発の効果

アンケートによる学科間比較 R4. 7月実施

家政科 (97名)	農業科学科 (97名)	普通科 (262名)
Q.あなたの現在の居住地はどこか。		
<p>1佐用町 9%</p> <p>2佐用町以外 91%</p>	<p>1佐用町 30%</p> <p>2佐用町以外 70%</p>	<p>1佐用町 43%</p> <p>2佐用町以外 57%</p>
Q.佐用町には魅力があり、好きである。		
<p>1とても 6%</p> <p>2そう思う 70%</p> <p>3あまり思わない 20%</p> <p>4全く思わない 4%</p>	<p>1とても 16%</p> <p>2そう思う 56%</p> <p>3あまり思わない 19%</p> <p>4全く思わない 9%</p>	<p>1とても 10%</p> <p>2そう思う 58%</p> <p>3あまり思わない 26%</p> <p>4全く思わない 6%</p>
Q.佐用町の特産物を知っているか。		
<p>1はい 92%</p> <p>2いいえ 8%</p>	<p>1はい 67%</p> <p>2いいえ 33%</p>	<p>1はい 53%</p> <p>2いいえ 47%</p>

5. カリキュラム開発の効果

アンケートによる学科間比較 R4. 7月実施

家政科 (97名)	農業科学科 (97名)	普通科 (262名)
Q.高校生として地域に貢献できることをしたいか。		
<p>3あまり思わない 9% 4全く思わない 1% 1とてもそう思う 24% 2そう思う 66%</p>	<p>4全く思わない 7% 1とてもそう思う 17% 3あまり思わない 16% 2そう思う 60%</p>	<p>4全く思わない 5% 1とてもそう思う 10% 3あまり思わない 29% 2そう思う 56%</p>
Q.学校の授業や行事で地域と交流したいか。		
<p>3あまり思わない 4% 4全く思わない 1% 1とてもそう思う 27% 2そう思う 68%</p>	<p>4全く思わない 6% 1とてもそう思う 25% 3あまり思わない 16% 2そう思う 53%</p>	<p>4全く思わない 5% 1とてもそう思う 17% 3あまり思わない 26% 2そう思う 52%</p>
Q.学校の授業や行事で地域と交流することで達成感や満足感はあるか。		
<p>3あまり思わない 5% 4全く思わない 1% 1とてもそう思う 25% 2そう思う 69%</p>	<p>4全く思わない 6% 1とてもそう思う 26% 3あまり思わない 16% 2そう思う 52%</p>	<p>4全く思わない 4% 1とてもそう思う 19% 3あまり思わない 21% 2そう思う 56%</p>

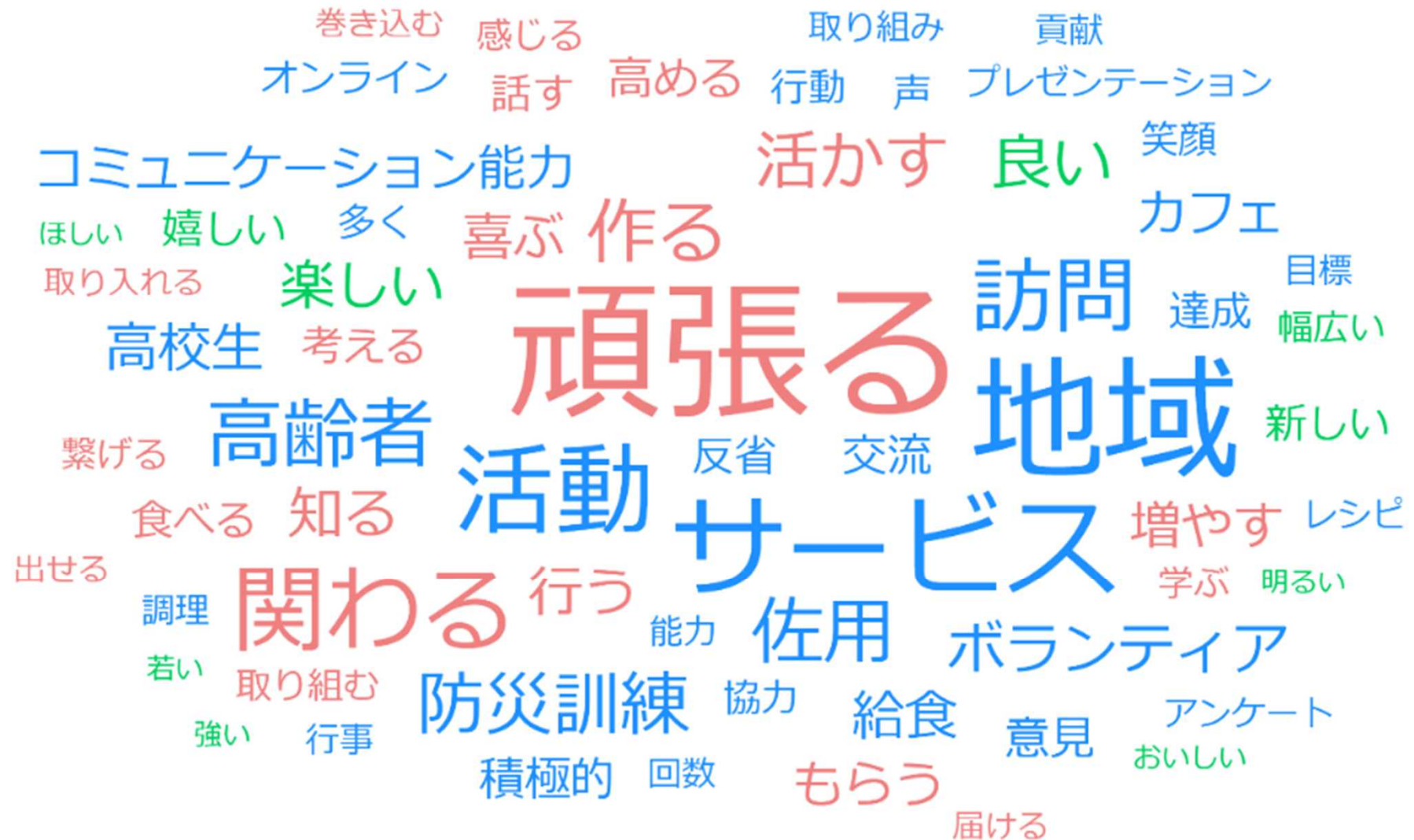
5. カリキュラム開発の効果

アンケートによる学科間比較 R4. 7月実施

家政科 (97名)	農業科学科 (97名)	普通科 (262名)
Q.高校卒業後、いずれは地元で働きたいと思うか。		
<p>1とてもそう思う 3%</p> <p>2そう思う 27%</p> <p>3あまり思わない 51%</p> <p>4全く思わない 19%</p>	<p>1とてもそう思う 17%</p> <p>2そう思う 29%</p> <p>3あまり思わない 35%</p> <p>4全く思わない 19%</p>	<p>1とてもそう思う 8%</p> <p>2そう思う 30%</p> <p>3あまり思わない 43%</p> <p>4全く思わない 19%</p>
Q.高校卒業後、地元に貢献したいと思うか。		
<p>1とてもそう思う 12%</p> <p>2そう思う 51%</p> <p>3あまり思わない 32%</p> <p>4全く思わない 5%</p>	<p>1とてもそう思う 14%</p> <p>2そう思う 51%</p> <p>3あまり思わない 25%</p> <p>4全く思わない 10%</p>	<p>1とてもそう思う 12%</p> <p>2そう思う 41%</p> <p>3あまり思わない 36%</p> <p>4全く思わない 11%</p>

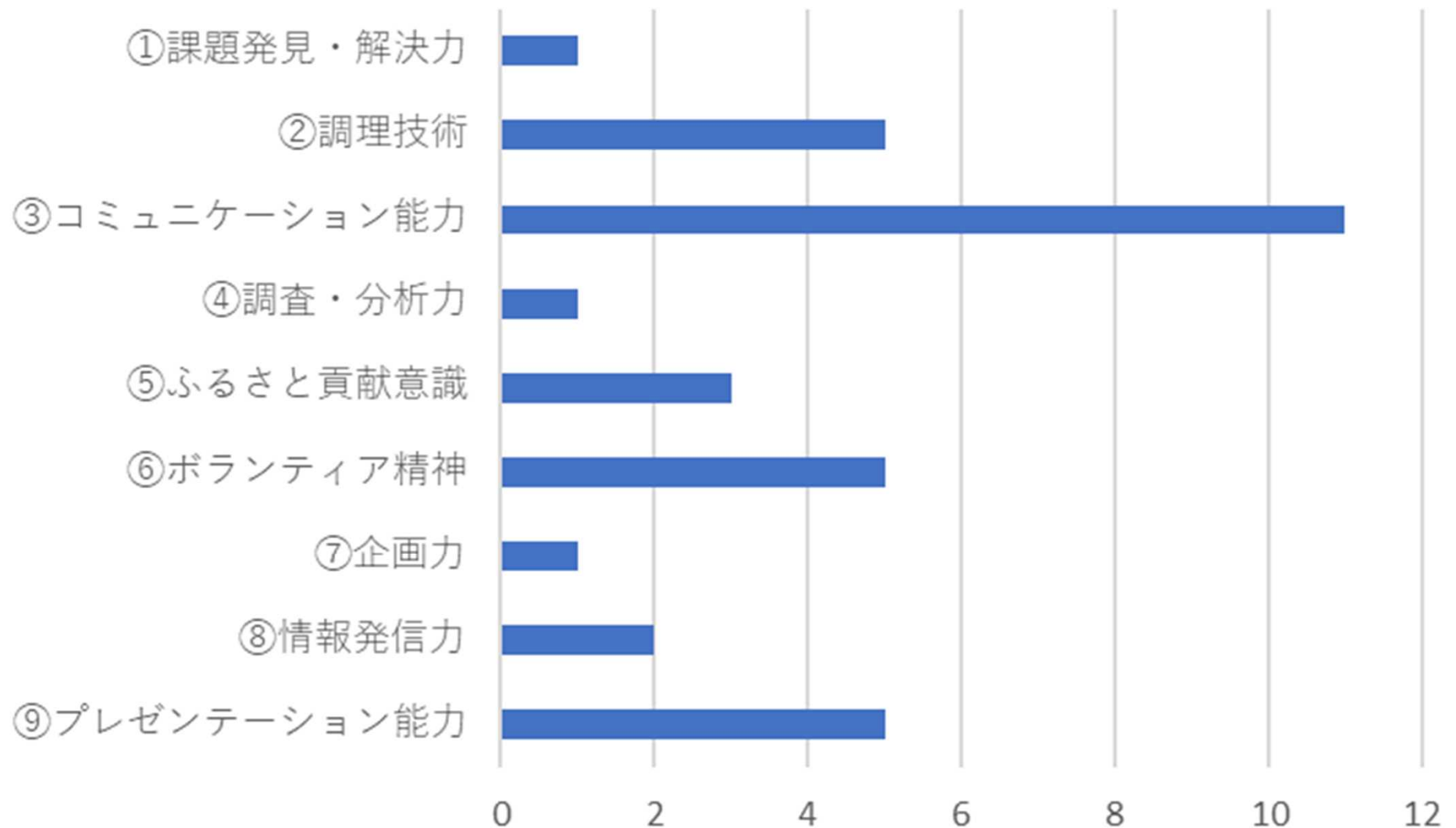
5. カリキュラム開発の効果

AIテキストマイニングによる分析【R3事業実施後の心境】



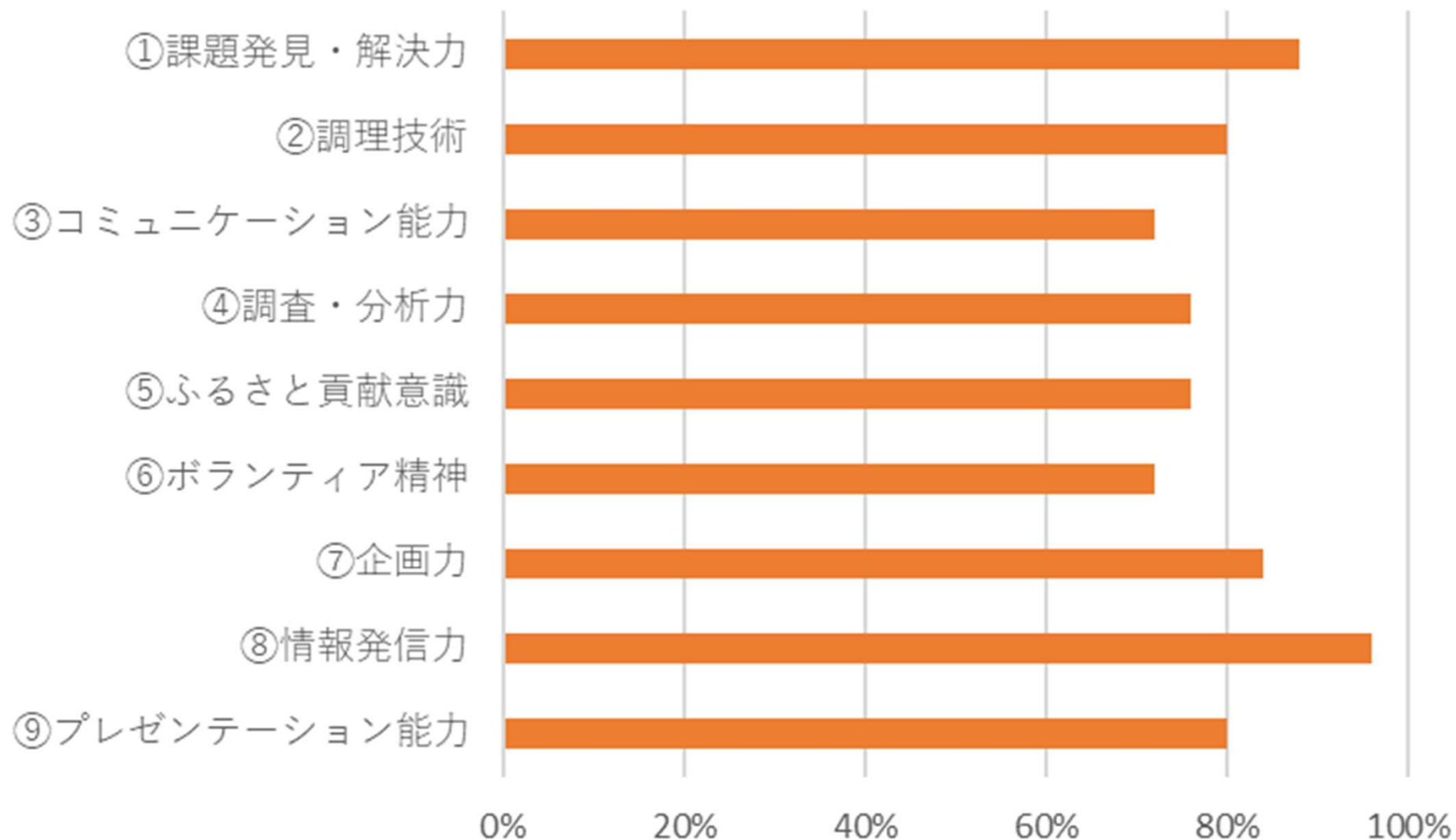
6. 成果

身に付いた力の自己評価「一番身に付いたと思う力」 R4. 3月実施



6. 成果

身に付いた力の外部講師による評価 R4. 3月実施



7. 考察

カリキュラム開発専門家 島根大学 作野広和教授からの評価

- 学年ごとに学びがスパイラルに向上している。
- 多様な教科や領域（学校設定科目の組込み）で構成されている。
- 地域課題を具体的に解決している。
- 高校生が関わって大人を巻き込むことで、地域の人達が積極的に本気になっている。
- 生徒の主体性が見え、非常に楽しそうに学習し、充実している。他の学校では、やらされている印象を受ける学校も少なくない。

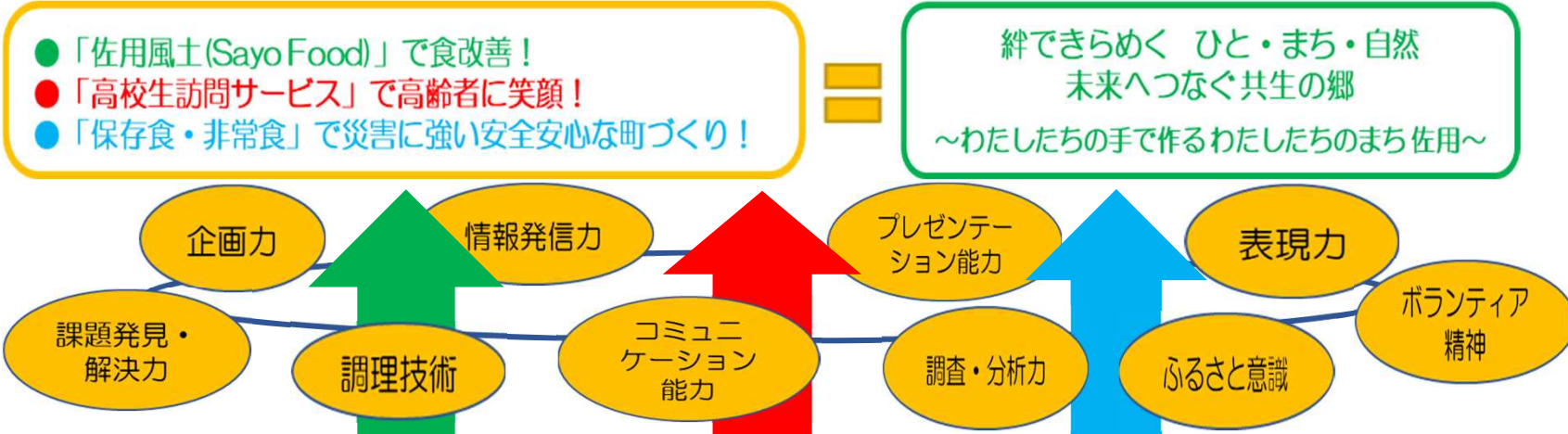
7. 考察

カリキュラム開発専門家 兵庫教育大学大学 永田智子教授からの評価

- 他の学校の先生が模倣できるようにすると良い。
先生の支援や活動の部分を情報として示す。
- 各科目や活動内容によって身に付く力を細分化。
- 生徒の感想がストーリー的で学びや感想を「ナラティブ」に振り返っていて面白い。
- 事実から理論を作り出す「グラウンデッドアプローチ」という方法もある。この取組がこんな力を育てるといいう理論を作ることにもできる。

8. カリキュラムのまとめ

「食」を通じてローコスト・ハイクオリティ社会の実現を目指す
プロフェッショナル人材を育成



学年	付けた い力	佐用の特産品を活用 (佐用もち大豆・ 夢茜トマト)	佐用で暮らす人を守る (高齢者食生活調査・ 食改善レシピ開発)	佐用の水害から学ぶ (災害時保存食開発・ 避難時支援者育成)	開発目標
3年	探究 発展力	フードスペシャリスト (高校生カフェ・ レシピ本発行)	ヒューマンサービス (高校生訪問サービス)	ヒューマンサービス (減災対策の提言) 伝統文化	●最終成果発表 (商品、レシピ本等) ●検証と成果普及 方法の確立
2年	探究 実践力	課題研究 (「佐用風土 (Sayo Food)」を使った商品 開発・食育活動)	ヒューマンサービス (地域課題改善策の 提言) 生活と福祉	フードデザイン (保存食・非常食開発)	●校内外での中間 発表等の実施 ●フィールドワー ク
1年	探究 基礎力	フードデザイン (基礎学習・食育活動)	生活産業基礎 (地域実態調査)	総合的な探究の時間 (防災学習・佐用学)	●カリキュラムや 評価等研究・開発 ●PDCAサイクル の確立

課題研究
(食物)
(福祉)

(KIZUNA
大作戦
減災
week)

9. 今後の展望

①地域協働事業の継続に向けて

- 家政科 開発カリキュラムの継続
- グローバル化を目指した取組
- 農業科学科、普通科も含めた取組の実施



「地域と高校の協働による
輝く人づくり支援事業」

佐用町と佐用高校で新たなコンソーシアム体制作り

9. 今後の展望

②兵庫県での事業活用の見直し

- 特別非常勤講師
- 「ひょうごの達人」招聘事業
- 「インスパイア・ハイスクール」事業
- 「高校生ふるさと貢献・活性化」事業
- 西播磨県民局事業
- 平福まちづくり協議会事業

9. 今後の展望

- 「自分のこと」として取り組む

→ **主体的な学び**

- コミュニケーション能力の向上

→ **対話的な学び**

- 課題発見・解決力の向上

→ **深い学び**



佐用を笑顔に

ご清聴ありがとうございました

